

第2期高知県教育振興基本計画 基本目標の状況

(H29.8 月末時点)

「知」の目標の状況.....	1
「徳」の目標の状況.....	3
「体」の目標の状況.....	6

掲載したデータは、平成 29 年 8 月末時点での最新データです。また、全国学力・学習状況調査及び全国体力・運動能力、運動状況等調査結果については、東日本大震災の影響により全国的な調査が行われなかった平成 23 年度の結果は除いています。

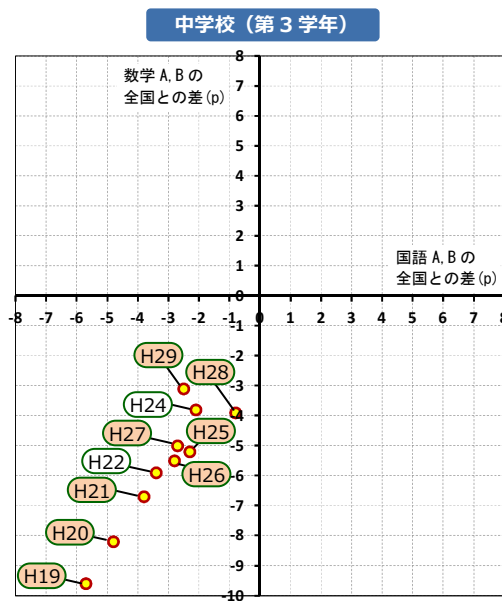
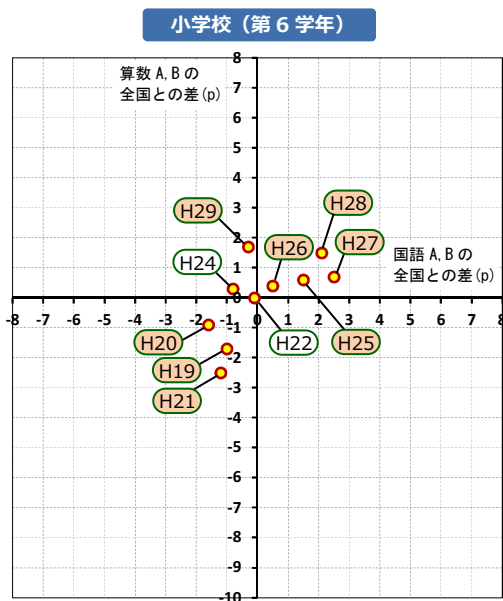
目標



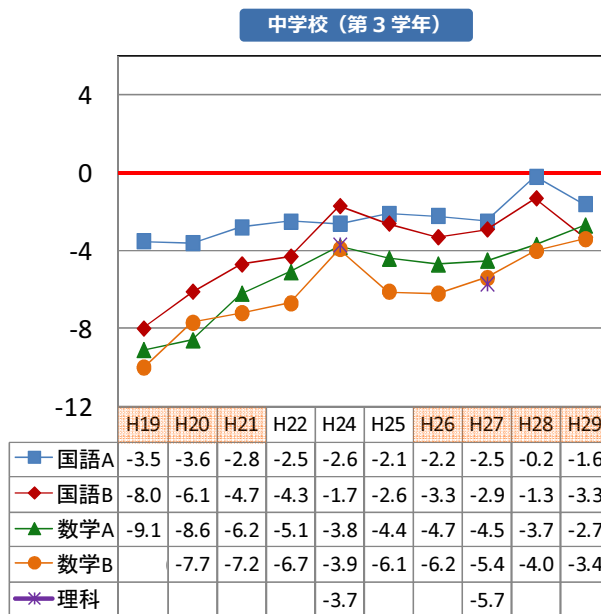
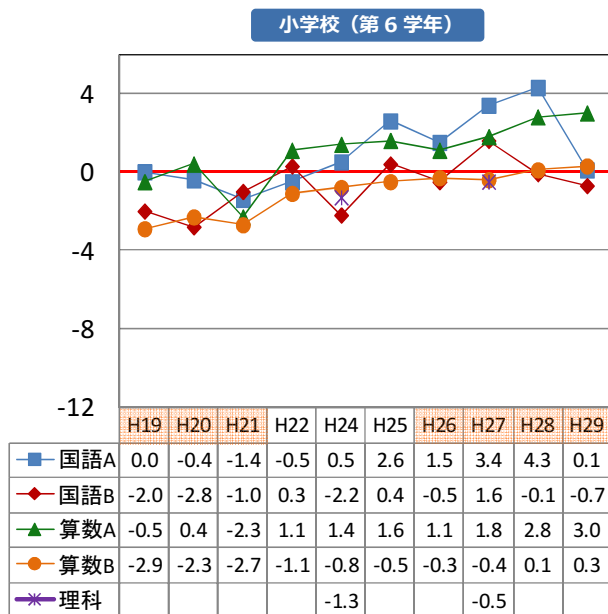
小学校の学力は全国上位を維持し、更に上位を目指す
中学校の学力は全国平均以上に引き上げる

■全国学力・学習状況調査結果（H19～H29年度）

◇本県と全国平均正答率の差



◇本県と全国平均正答率の差（教科、問題別）



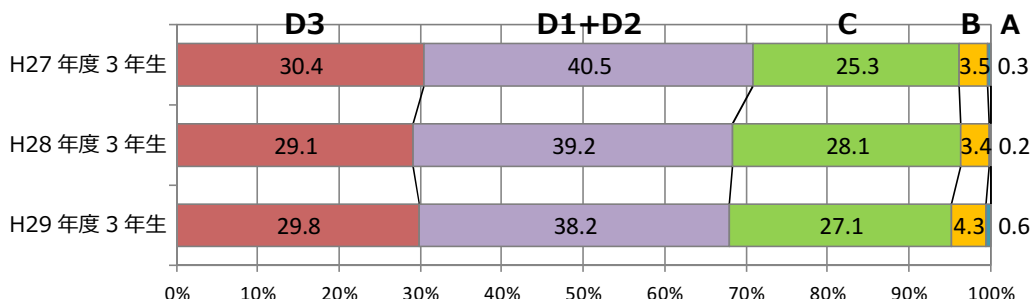
※平成 22・24 年度は抽出調査、平成 23 年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施

- 小・中学生の学力の状況は、全国学力・学習状況調査が始まった平成 19 年度からは改善傾向にある。
- 平成 29 年度調査結果について、算数・数学は小・中学校ともに過去最高となり、改善が進んでいる。一方、国語については小・中学校ともに前年度の結果を下回り、特に小学校は、知識や技能を問う A 問題で大きく下回る結果となっている。また、国語、算数・数学ともに、主に思考力・判断力・表現力を問う B 問題に弱さが見られる点について、まだ十分な改善が見られない状況である。



高校 3 年生の 4 月の学力定着把握検査における D3 層の生徒の割合を 15%以下に引き下げる

■ 学力定着把握検査結果（3 年生 4 月の調査結果）



※数値は学力定着把握検査Ⅰ（30 校）の結果

※その他 6 校で学力定着把握検査Ⅱを実施

※評価尺度である学習到達ゾーンの内容は下表のとおり

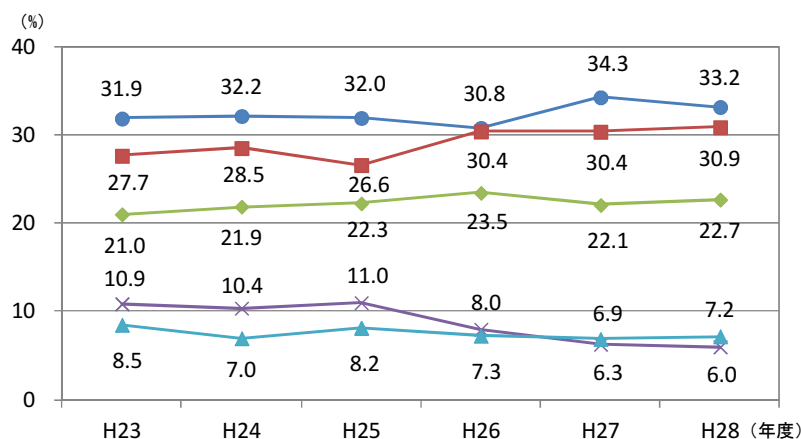
（なお、学力定着把握検査Ⅰにおける学習到達ゾーンの最高値は A2 であり、A1～S1 は存在しない）

学習到達ゾーン (GTZ)	進路選択肢	
	進 学	就 職
Sゾーン	S1～S3 難関大学合格レベル(最難関大はS1)	上場企業などの大手の就職筆記試験や公務員試験に対応できるレベル
Aゾーン	A1～A3 国立大合格レベル	
Bゾーン	B1 公立大学合格レベル(一般入試) B2・B3 国公立大の推薦入試に合格可能で、私立大の一般入試では、 選択肢が広がるレベル	
Cゾーン	C1～C3 私大・短大・専門学校の一般入試に対応可能なレベル	就職筆記試験における平均的評価レベル
Dゾーン	D1 上級学校に進学することはできるが、授業についていけず、苦勞 する学生が多い	就職試験で必要な最低限のラインはクリアしているが、仕事をする上で支 障が出ることが多い
	D2	
	D3	筆記試験が課される企業では不合格になることが多い



高等学校卒業者のうち進路未定で卒業する生徒の割合を 3%以下にする

■ 公立高等学校卒業者（全日・定時・通信制）の進路状況



※就職については高知県就職対策連絡協議会調べ、進学については高知県進学協議会（H24 まで）、高等学校課（H25 以降）調べによる

※就職率・進学率は、公立高校卒業生全体に占める割合

※進路未定には、具体的な進学・就職先が未定の生徒、パート・アルバイト等の生徒も含む

高知県就職対策連絡協議会、高知県進学協議会、高等学校課調査

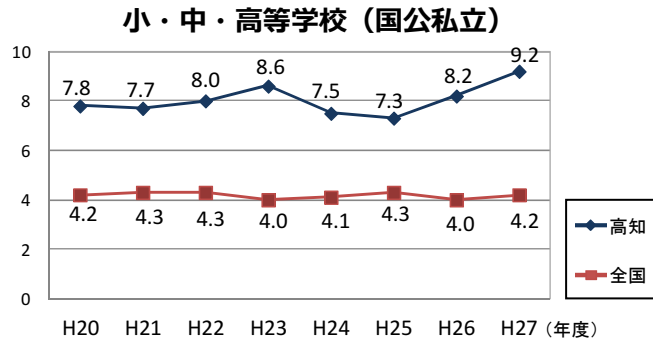
- 高校生の学力の状況について、4 月の学力定着把握検査結果をみると、3 年生の約 70%が D ゾーン、うち約 30%が D3 ゾーンという厳しい状況が続いている。
- 公立高等学校卒業者の進路の状況については、平成 28 年度の進路未定の割合は 6.0%と前年に比べ 0.3 ポイント減少した。



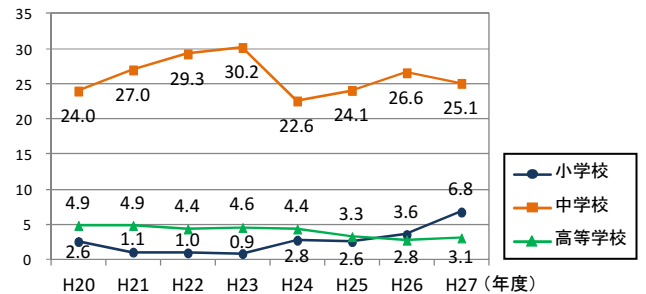
生徒指導上の諸問題（不登校、暴力行為、中途退学）の状況を全国平均まで改善する

■ 児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査結果（H20～27年度）

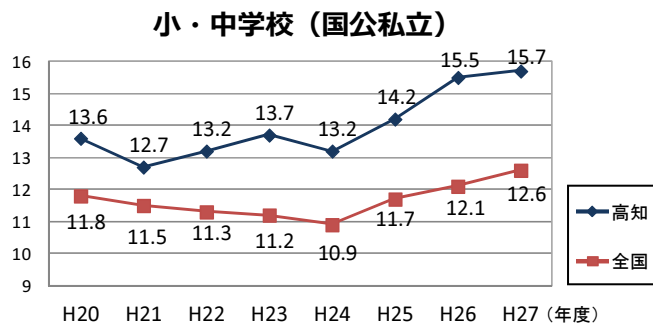
◇ 暴力行為 ※数値は1,000人あたりの発生件数



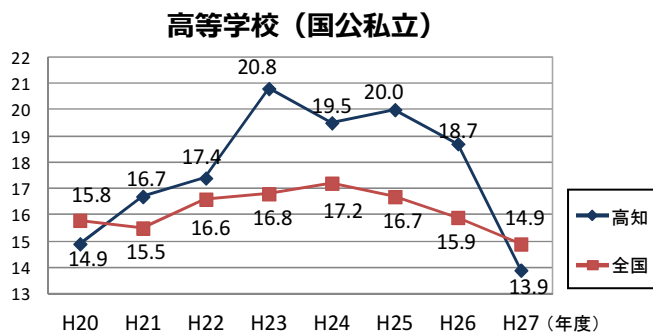
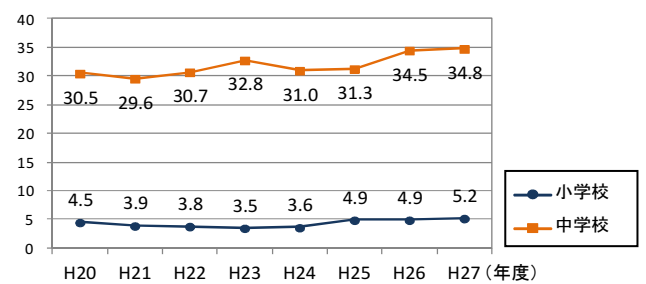
(参考) 高知県公立小・中・高等学校（校種別）



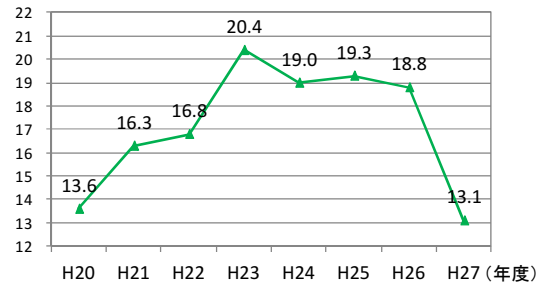
◇ 不登校 ※数値は1,000人あたりの不登校児童生徒数



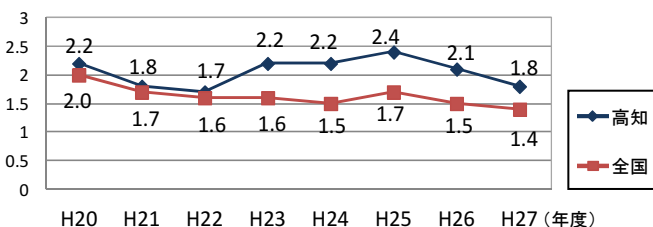
(参考) 高知県国公立小・中学校（校種別）



(参考) 高知県公立高等学校



◇ 中途退学



※数値は%
※通信制高校の中途退学を H25 年度から追加

- 小・中・高等学校の暴力行為発生件数は増加傾向にある。特に、小学校における暴力行為の件数が大幅に増加しており、特定の学校の児童が複数回の暴力行為を行っている状況にある。
- 不登校児童生徒数は、小・中学校ではいずれも全国平均を大きく上回っているが、前年度からの継続ではなく、新規に不登校となる割合が全国より高い。高等学校では、平成23年度をピークに減少しており、平成27年度は全国平均を下回っている。
- 高校生の中途退学率は減少傾向にあり、平成27年度は1.8%となっているが、依然として全国平均より高い状況が続いている。

不登校（長期欠席）児童生徒数について（公立）

【高知県生徒指導上の諸課題・児童虐待に関する調査 速報値】

H28 不登校児童生徒数

（単位：人）

校種 年度	小学校		中学校		高等学校		合 計
	不登校 児童数	1,000人当 たりの不登校 児童数	不登校 生徒数	1,000人当 たりの不登校 生徒数	不登校 生徒数	1,000人当 たりの不登校 生徒数	不登校 児童生徒数
H27	180	5.3	609	39.4	179	13.1	968
H28	176	5.3	650	43.3	191	14.1	1,017
前年度比 較	-4	±0	+41	+3.9	+12	+1.1	+49

H29 長期欠席（7月末 欠席10日以上）

（単位：人）

	小学校	中学校	高等学校	合計
H 2 8	4 0 7	7 3 2	1 6 8	1, 3 0 7
H 2 9	4 2 4	7 2 7	1 6 0	1, 3 1 1
前年度比較	+ 1 7	- 5	- 8	+ 4

現状に対する分析

【H28 不登校児童生徒について】

- ・ 小学校における不登校は、平成27年度とほぼ変わりなく、中学校における不登校はさらに増加している。小中学校での不登校児童生徒は高い割合で生じており、厳しい状況が継続している。
- ・ 高等学校における不登校生徒数は、若干増加しているものの、割合としては低めである。
- ・ 厳しい状況が継続しているのは、学校等の児童生徒への支援の不十分さもあるが、それ以上に学校生活に適応しにくい児童生徒が増えているのではないかと予想される。
- ・ 教職員の理解は進んでおり、適切な対応ができてきているが、まだ十分でない部分もある。

【H29 7月末時点の長期欠席について】

- ・ 小学校における長期欠席はやや増加しているが、全体としては、ほぼ前年度並みである。

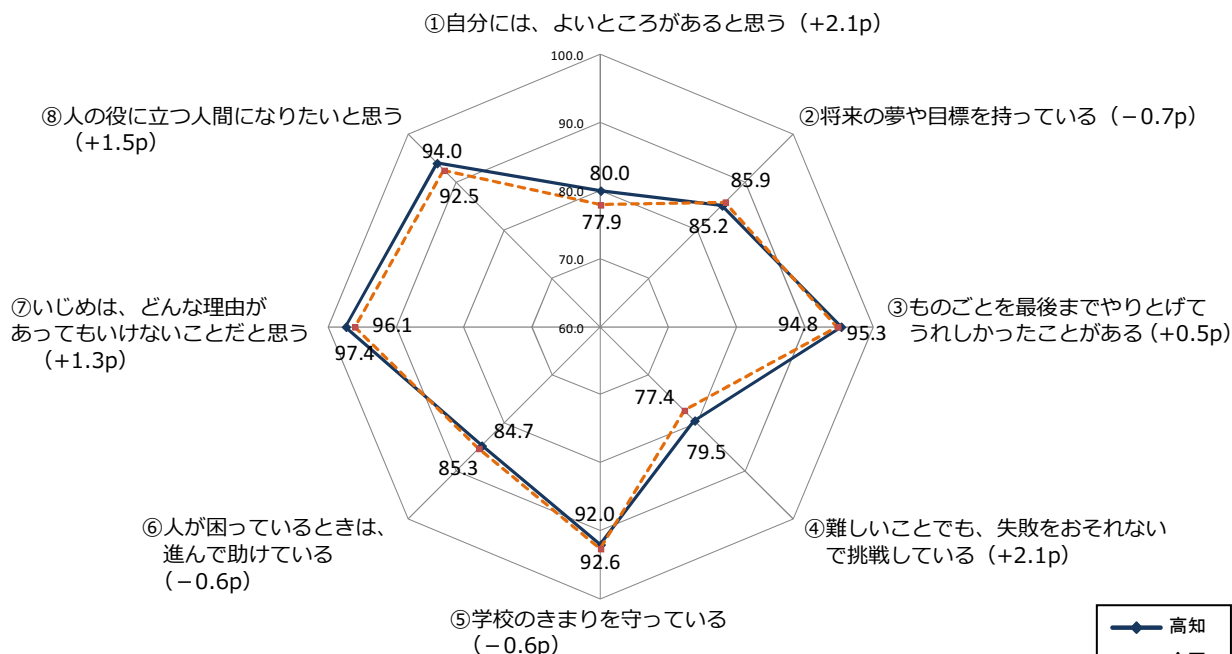


全国学力・学習状況調査における児童生徒の道徳性（自尊感情、夢や志、思いやり、規範意識、公共の精神等）意識調査結果で、全国平均を3ポイント以上上回る

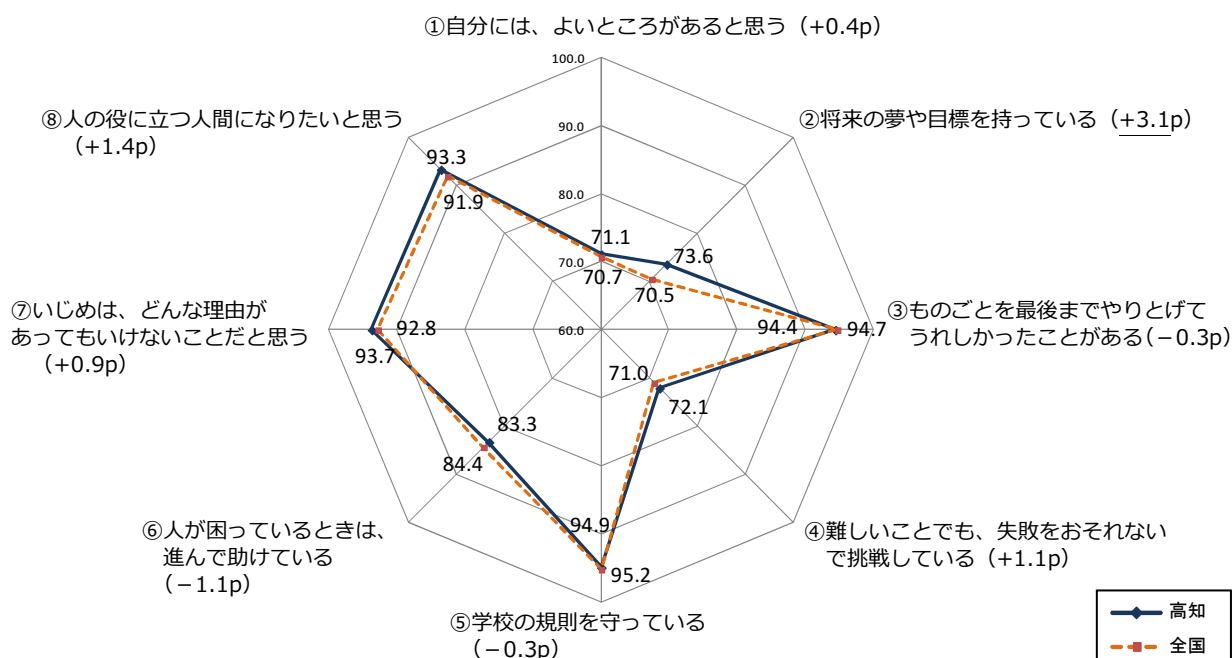
■全国学力・学習状況調査 児童・生徒質問紙調査結果抜粋（H29年度調査結果）

※各質問に対し、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童生徒の割合（%）
※質問項目横の（ ）内数値は全国平均との差（高知－全国）

小学校（第6学年）



中学校（第3学年）



■小・中学校ともに、多くの項目で肯定的な回答の割合は全国平均とほぼ同じであるが、小学校では①「自分にはよいところがある」、④「難しいことでも、失敗をおそれないで挑戦している」、中学校では②「将来の夢や目標を持っている」において全国平均をやや上回っている。

目標



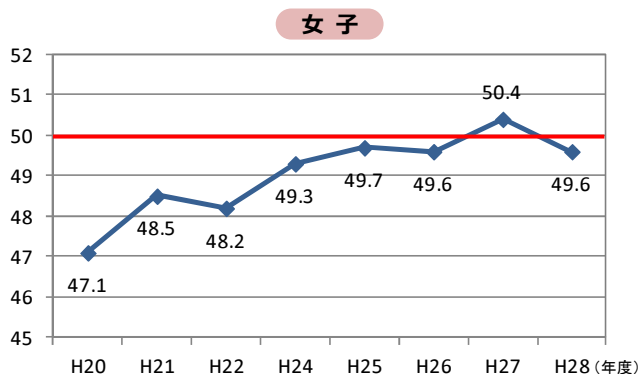
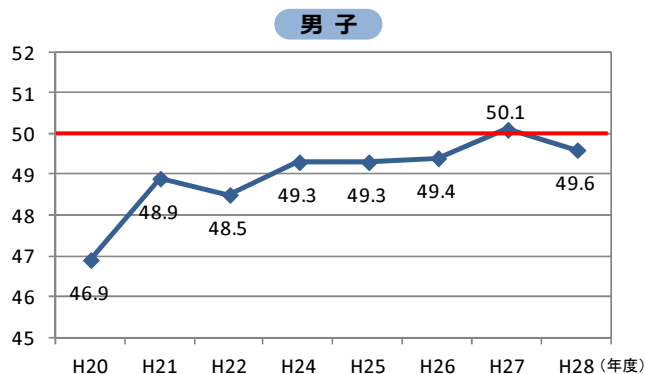
小学校の体力・運動能力は全国上位に、中学校の体力・運動能力は全国平均以上に引き上げる

■全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果（H20～28年度）

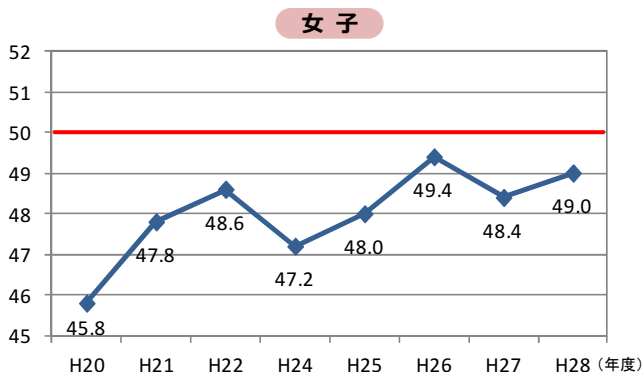
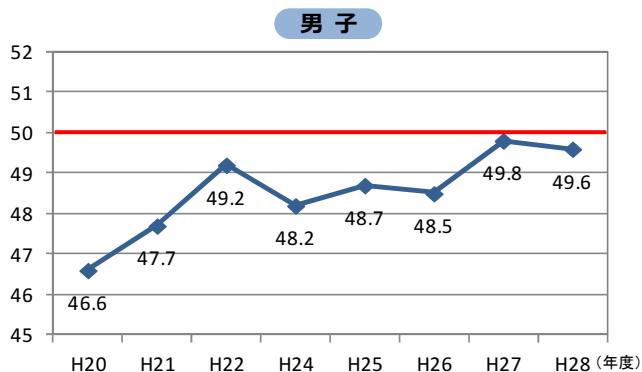
※平成23年度は東日本大震災の影響により全国調査は未実施
※数値はT得点（全国平均＝50）

◇体力合計点（8種目の実技の総合点）の推移

小学校（第5学年）

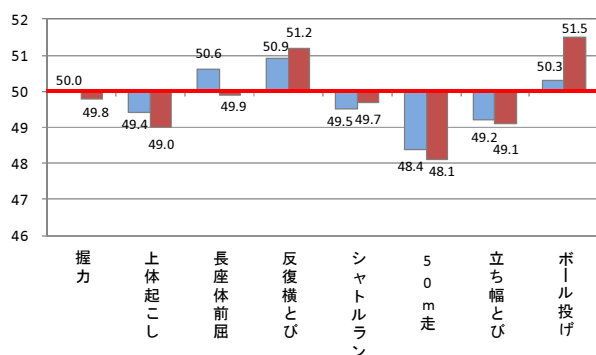


中学校（第2学年）

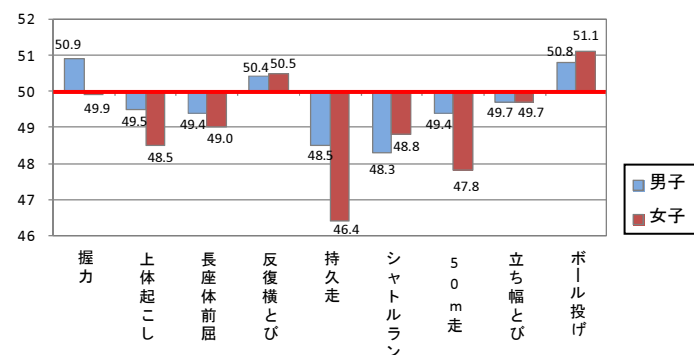


◇種目別結果（H28年度）

小学校（第5学年）



中学校（第2学年）



■児童生徒の体力等の状況は、調査が始まった平成20年度は全国と比較すると低い水準にあったが、その後は着実な改善傾向を示している。平成28年度の調査結果について、小学校は、男女とも全国平均を上回った昨年度からやや後退する結果となったが、全国平均レベルの結果となっている。中学校は、男子においては、昨年度と同程度の結果で、小学校と同様にほぼ全国平均に達している。女子については、昨年度から改善が見られ、経年でみると全体的には上昇傾向にあるといえる。